

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業のうち課題解決型プロジェクト研究

「新たな人獣共通感染症の発生に備えた事前リスク評価」の中間評価結果及び評価結果に基づく対応措置

実施研究機関	実施期間	研究概要	評価所見	総括評価	評価結果に基づく対応措置 (研究計画の変更、中止等)
<p>人獣プロコンソーシアム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 ・国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 ・国立大学法人群馬大学 ・国立大学法人鹿児島大学 ・一般社団法人日本養豚開業獣医師協会 	<p>R3～R7</p>	<p>(背景・目的) 新たな人獣共通感染症の発生に備えるため、家畜における浸潤状況やヒトへの感染リスクが不明な病原体に対して、そのリスクの事前評価やリスク低減策の構築を目的とした研究を実施する。</p> <p>(研究項目) 小課題1. 豚インフルエンザに効果的な新規ワクチンプログラムの確立 豚インフルエンザウイルスの飼養者への感染リスクや豚での存続様式を明らかにし、農場内で豚での流行を低減するために有効なワクチンプログラムを提案する。</p> <p>小課題2. D 型インフルエンザウイルスのヒトへの潜在的感染性の評価 国内における D 型インフルエンザウイルスの牛での浸潤度及びヒトへの感染潜在性を評価し、新たな人獣共通感染症としてのリスクを明らかにする。</p> <p>小課題3. コロナウイルスの制御法確立に向けた研究開発 家畜コロナウイルスの家畜や野生動物等における浸潤度や野生動物からの農場への侵入可能性の実態を把握する。また、家畜での浸潤度の高いコロナウイルス1種類以上を対象に宿主特異性や病原性を明らかにし、ヒト感染リスクを明らかにする。</p> <p>小課題4. <i>Escherichia albertii</i> の家畜における浸潤状況調査およびリスク評価 大腸菌の類似菌種である <i>E. albertii</i> の家畜における浸潤状況を明らかにするとともに、ヒトへの伝播性や家畜に対する疾病リスクを明らかにする。</p>	<p>・小課題で進捗状況に差はあるものの、概ね研究実施計画どおり、又は計画以上に進捗している。新たな人獣共通感染症のリスク評価のために貴重な情報が集積しつつあると判断でき、引き続き運営チームと緊密に連携しつつ、継続して研究を実施することが妥当である。特に、「ヒトへのリスク」という観点からの検討がさらに進むことを期待する。</p> <p>・人獣共通感染症のリスク評価の研究を遂行する上で、人における疫学研究・調査は必須と思われるが、医学分野との共同研究あるいは研究者を加える等の可能性も含め、事前に十分検討しておく必要があったと思われる。</p> <p>・小課題1では、豚インフルエンザウイルスの農場内循環サイクルが明確になっていないと思われる。牧場の従業員まで含めて、感染の循環が明確になるとより良いのではないかと。計画にある民間牧場の一部を借りて実施する方法には限界があることから、理想的には実験農場の設置なども選択肢として考える必要がある。</p> <p>・小課題1では、農場分離ウイルス株とワクチン候補株との抗原性適合に課題があり、小課題2では、複数のサンプル入手に課題が認められる。これらの小課題については、目標達成に向けてどのように課題を解決していくのかを検討し、計画に反映していくことが必要である。各小課題で達成目標は設定されているが、その得られた成果が現場で活用されるよう、現場のニーズ等も意識しながら研究を進めていただきたい。</p> <p>・小課題4においては当初目標を上回る家畜糞便検体を収集し、検査を実施できているところは評価に値する。<i>E. albertii</i> 浸潤状況把握の調査における菌陽性率や、今後実施が計画されている病原遺伝子解析、ヒト由来株との比較解析等により、家畜が <i>E. albertii</i> 食中毒に関与するリスクの推測ができ、食品安全に係る微生物リスク管理の優先性の検討、生産現場への情報提供等に活用できる。また、今後検査法が開発されれば、将来的に、リスクの程度に変化があるかを把握するためのサーベイランス等に活用できる。</p>	<p>A</p>	<p>必要に応じて研究推進会議以外にも運営チームと連携を図り、提示された課題を解決しつつ継続して研究を実施すること。</p>

<総括評価の説明>

- A: 研究実施計画どおり、又は計画以上に進捗しており、引き続き運営チームと連携し、継続して研究を実施することが妥当である。
- B: 研究の進捗は遅れているが、一層の努力により研究を実施すれば、研究目標の達成は可能と見込まれる。
- C: 研究の進捗が遅れており、運営チームと協議し、研究実施計画を見直した上で研究を実施することが妥当である。
- D: 研究計画を見直しても目標を達成できる見込みが低いことから、研究課題を中止することが妥当である。